



「『みどりのきずな』再生プロジェクト」及び 民間団体との連携の考え方

平成24年10月30日 「『みどりのきずな』再生プロジェクト」民間団体との連携に向けた説明会

林野庁治山課山地災害対策室 井上 晋

海岸防災林とは



- 潮害、飛砂、風害の防備等の災害防止機能を有し、農地や居住地を災害から守るなど地域の生活環境の保全に重要な役割
- また、海岸部の美しい景観を維持・形成
 - 飛砂防備保安林、防風保安林、潮害防備保安林、防霧保安林
 - 風致保安林、保健保安林
- 古くから地域住民により造成・維持管理されてきてるなど歴史的な経緯や地域社会と密接な関わり
 - 9世紀頃から自生森林の保全や植栽に取り組み始め、17世紀頃から本格的に海岸防災林を造成



東日本大震災による海岸防災林の被災状況



宮城県岩沼市沿岸



岩手県陸前高田市高田松原

防潮堤の被害



茨城県大洗町

防潮護岸、海岸防災林の被害



青森県三沢市

樹木の被災状況



幹折れ

根系は深く伸び流出していないが、津波の波力で幹が折損



根返り

地下水の影響で根系が深く伸びず、津波の波力で根ごと流出



倒伏

比較的径級の小さい樹木は、津波の波力で根元から倒伏

海岸防災林の被害軽減効果



○津波エネルギーの減衰、漂流物の捕捉効果



【青森県八戸市大字市川町】



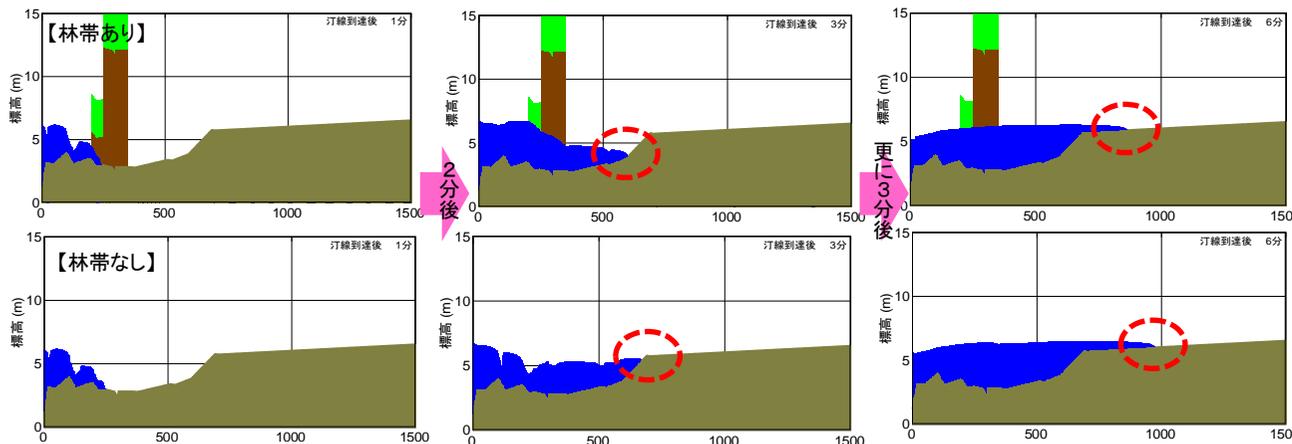
【宮城県亘理町】



【福島県いわき市】

○到達時間の遅延効果

((独)森林総合研究所における数値シミュレーションによる試算結果)



海岸防災林が存在する方が内陸への津波の到達を遅らせたことを確認。

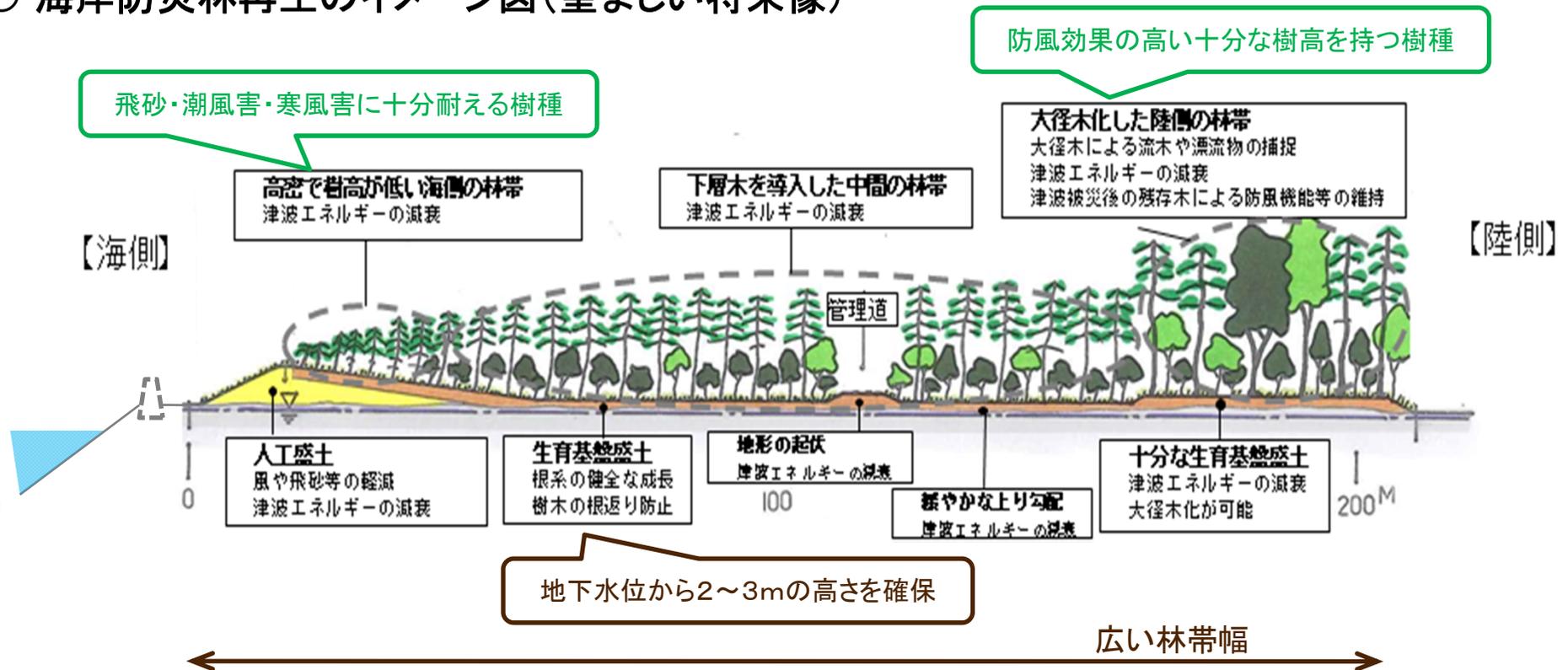
海岸防災林の再生について



○ 海岸防災林の再生の基本的な考え方

- 地域の防災機能の確保を図る観点から、飛砂・風害の防備等の災害防止機能に加え、津波に対する被害軽減効果も考慮した海岸防災林の復旧・再生を検討（「多重防御」の一つとして位置づけ）
- 具体的には、被災箇所ごとに、被災状況や地域の実情さらには地域の生態系保全の必要性等を踏まえ、再生方法を決定。

○ 海岸防災林再生のイメージ図（望ましい将来像）



海岸防災林の再生にあたっての植栽樹種



○海岸防災林の造成地は環境条件が著しく悪いことから、飛砂、潮風及び寒風等の害によく耐えうるなどの条件を有する樹種を選定

～「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」報告書(平成24年2月)より～

海岸防災林に使用される一般的な樹種

- ◇ 海岸防災林造成で一般的に用いられる樹種は次のとおり。
 - ・針葉樹: クロマツ、アカマツ等
 - ・広葉樹: カシワ、トベラ、タブノキ、コナラ、エゾイタヤ等



海岸防災林に使用される海側、陸側に植栽する樹種の条件

- ◇ 海岸防災林造成地の海側、陸側に植栽する樹種の条件としては、
 - 海側: 飛砂、潮、風等を直接受けることから、飛砂、潮風及び寒風等の害に十分耐えうるもの
 - 陸側: 防風効果を高めるため、保全対象に対し十分な樹高をもつもの

■ 区域区分による植栽樹種例(案)

	海側		中間		陸側	
	上層木	下層木	上層木	下層木	上層木	下層木
針葉樹	クロマツ アカマツ		クロマツ アカマツ		クロマツ アカマツ	
広葉樹		アキグミ カシワ ハマナス トベラ シャリンバイ	タブノキ エノキ シロダモ ハンノキ	アキグミ トベラ カシワ ハマナス シャリンバイ ヤブツバキ ネズミモチ	タブノキ エノキ シロダモ ケヤキ コナラ エゾイタヤ	アキグミ トベラ カシワ ハマナス シャリンバイ ヤブツバキ ネズミモチ

「『みどりのきずな』再生プロジェクト」について



- 野田内閣総理大臣は、平成24年4月23日、「『みどりのきずな』再生プロジェクト」構想として、ガレキを再生・利用し、地域に安全と安心を与える海岸防災林を復旧・再生するプロジェクトを推進していくことを発表。

被災地と支援する方々の間、被災地の人々の間、大震災を経験した今の世代と未来の世代、さらには人間と自然との間などをつなぐ様々な絆を、今回の海岸防災林の再生を通じ形にしていくという意味を込めて、総理により命名。

- 林野庁は、本構想に基づき、準備の整った箇所から順次手続きを進め、被災延長約140kmのうち、今年度中に約50kmについて海岸防災林の再生に着手予定。
- その際には、分別、無害化され安全性が確認された災害廃棄物由来の再生資材も活用しながら樹木の生育基盤を造成。
- 地域の自然条件等を踏まえつつ、NPO、企業等による協力も得ながら植栽等を進める予定。

■構想概要

ガレキを再生・利用し、地域に安全と安心を与える
海岸防災林を復旧・再生

・青森県～千葉県で約140kmにわたる被災海岸防災林

・今年度中に約50kmの復旧事業を実施

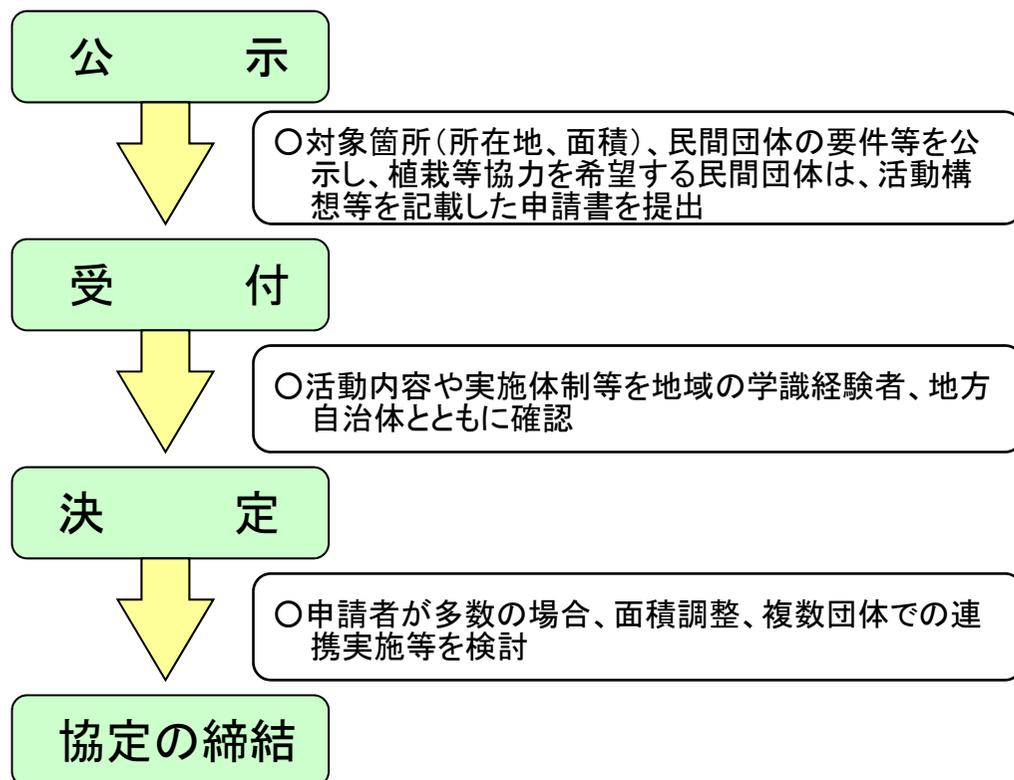
・地元住民・NPOや企業との連携した植林活動

民間団体との連携について



- 海岸防災林の再生にあたり、国有林においては、生育基盤の造成工事が完了した箇所の一部について、**公募による協定方式を基本**として、植栽や保育活動を希望するNPO、企業等の民間団体と連携した取組を行う予定。
- 具体的手続きについては、対象箇所やご協力いただける民間団体の**要件等を公示**した上で、**公募**を行い、**公平性や技術的な視点等から活動内容や実施体制等を確認**の上で民間団体を決定する。
- 民有林(直轄箇所)における連携のあり方については、都道府県、市町村の意向を踏まえ対応。

■民間団体との協定手続き(イメージ)



注)国有林における手続きのイメージであり、民有林(直轄箇所)は、土地所有者である県、市町村の意向を踏まえて対応。

□国有林における協定締結による森林づくり活動事例

【事例1】

秋田県由利本荘市の水林国有林において、「株式会社A」と「社会貢献の森」協定を締結し、松くい虫被害で損なわれた海岸林の再生を目的に、クロマツの植樹や下刈等の森林整備を実施しています。(東北森林管理局 由利森林管理署)



【事例2】

三重県熊野市、御浜町、紀宝町に跨がる七里御浜国有林において「七里御浜松林を守る協議会」と「ふれあいの森」協定を締結し、クロマツの植樹や下刈等の森林整備や林内清掃を実施しています。(近畿中国森林管理局 三重森林管理署)



プロジェクトの工程表及び進捗状況等について



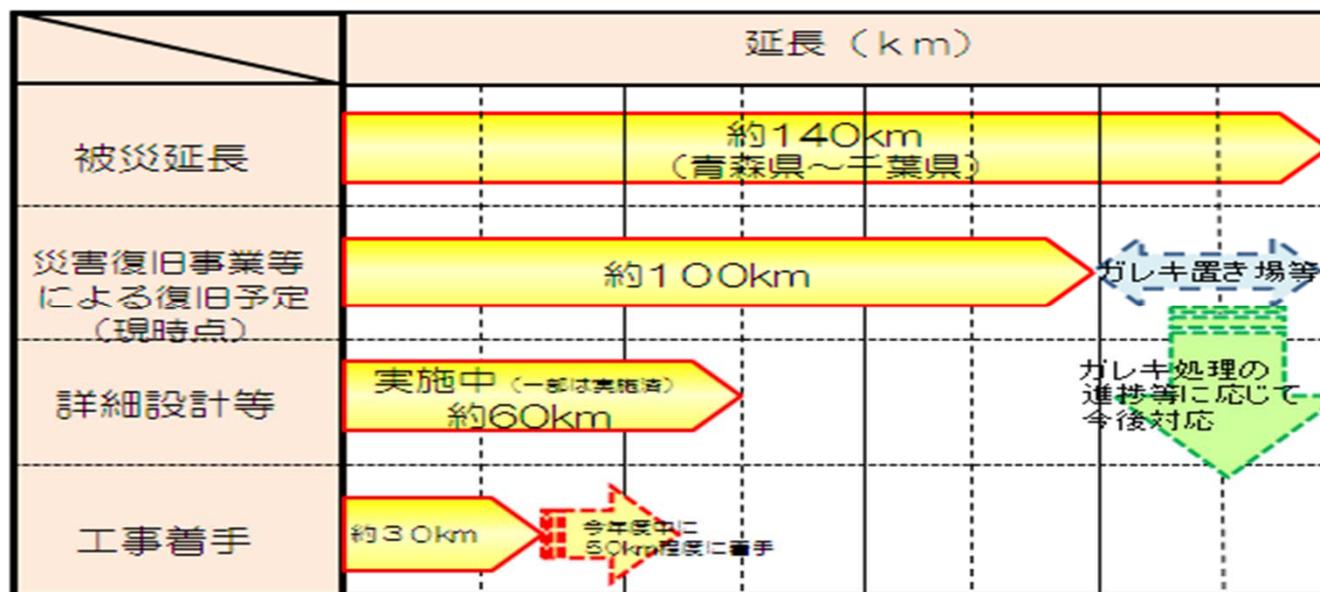
◆復興工程表(平成23年11月、復興庁公表資料)

○ 海岸防災林の再生

防潮堤の復旧等海岸防災林の造成に必要な基盤造成については概ね5年での完了を目指す。

また、樹木の植栽等については、基盤造成が完了した箇所から順次実施し、概ね10年での完了を目指す。

◆海岸防災林の復旧・再生の進捗状況等について(平成24年10月1日現在)



※延長等については、現時点での復旧方針による見込み。今後の福島第1原発の警戒区域の見直し等により変動するものである。

プロジェクトの進捗状況



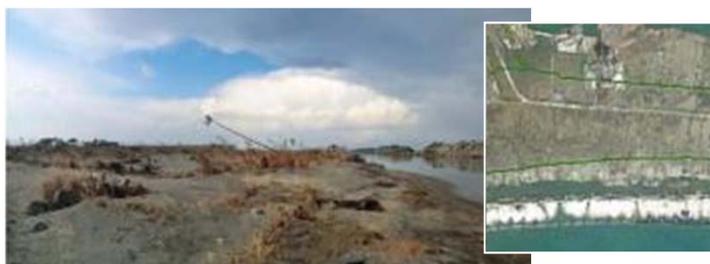
- 青森県、茨城県、千葉県では、昨年度から復旧・再生事業に着手。災害廃棄物由来の再生資材の活用や植樹イベント等も実施。
- 岩手県、宮城県でも本年度から復旧・再生事業に着手。福島県でも事業着手のための事務手続き中。再生資材を活用した基盤整備を実施し、来年春より順次植栽にも着手。



【岩手県宮古市】盛土材として再生資材を搬入



【青森県八戸市】地元主催で植樹イベントを実施



【福島県相馬市】基盤造成工事の入札公告中



【宮城県仙台市】盛土材として再生資材を搬入



【千葉県旭市】再生資材を活用した人工盛土を造成し、植栽



【茨城県神栖市】浸水被害箇所を再植林

An aerial photograph showing a coastal region. In the foreground, there is a sandy beach with waves breaking. Behind the beach is a dense line of green trees. Further inland, there are large, flat, brownish fields, possibly rice paddies, and a network of roads and small buildings. In the far distance, a city with many buildings is visible under a hazy sky.

ご静聴ありがとうございました